



System Management Services (SMS) 1.4.1 ご使用にあたって

Sun Microsystems, Inc.
www.sun.com

Part No. 817-6112-10
2004 年 4 月, Revision A

コメントの送付: <http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, docs.sun.com, Sun Fire, OpenBoot PROM, Java は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

Use, duplication, or disclosure by the U.S. Government is subject to restrictions set forth in the Sun Microsystems, Inc. license agreements and as provided in DFARS 227.7202-1(a) and 227.7202-3(a) (1995), DFARS 252.227-7013(c)(1)(ii) (Oct. 1998), FAR 12.212(a) (1995), FAR 52.227-19, or FAR 52.227-14 (ALT III), as applicable.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: System Management Services (SMS) 1.4.1 Release Notes
Part No: 817-5407-10
Revision A



Adobe PostScript

目次

はじめに vii

1. System Management Services (SMS) 1.4.1 ご使用にあたって 1
 - SMS 1.4.1 で既知の制限事項 1
 - 一般的な問題 2
 - 自動診断および自動回復 2
 - Capacity on Demand (COD) 5
 - システムコントローラ (SC) 外部ネットワークの構成 5
 - システムの BREAK 処理 6
 - IPSec の構成 7
 - smsconnectsc コマンド 7
 - 再インストールとアップグレード 7
 - SMS マニュアルのパーツ番号 8
2. SMS 1.4.1 のバグ 9
 - SMS 1.4.1 ソフトウェアのバグ 9
 - ホットスワップ時に SEEPROM にイベントを記録しようとする時 I2C タイムアウトが報告されることがある (BugId 4785961) 9
 - hwad の失敗でドメインがパニック状態となり停止することがある (BugID 4924523) 10
 - ドメインの起動時間が長くなった (BugId 4957596) 10

- 2 プロセッサのシステムボードでドメイン再起動後に Unknown ステータスが
表示される (BugId 4970240) 10
- 電源を切断した拡張ボードにシステムボードを取り付けられない (BugId
4970670) 11
- 実行中のドメイン内の拡張ボードの電源を切断した場合に、ドメインが回復
しない (BugId 4970726) 11
- setkeyswitch 処理を平行して実行しているシステムの post で CHS エラー
が断続的に報告される (BugId 4971816) 11
- SMS 1.4.1 とパッチを適用していない SMS 1.3 を smsversion を使用して切
り替えることができない (BugId 4974601) 12
- 複数の分割拡張ボードに対して setkeyswitch 処理を同時に実行すると
SEEPROM/CHS エラーが発生することがある (BugId 4974846) 13
- testemail で複数の障害報告を行うと、電子メールが送信されない場合が
ある (BugId 4976195) 13
- 障害のあるハードウェアのために不要な dstop エラーメッセージが生成され
ることがある (BugId 4983517) 13
- 有効な DR 処理時に dsmd によって不要な xir ダンプとハードウェア構成ダ
ンプが作成されることがある (BugID 4984234) 14
- 分割拡張ボード構成で複数の setkeyswitch 処理を同時に実行するとシス
テムがハングすることがある (BugID 4984879) 14
- 分割拡張ボードのドメイン構成で setkeyswitch 処理が無効な rstop を生
成することがある (BugID 4986412) 15
- MCPU または IO ボードをドメインの IO スロットに装着した後、不要な I2C
timeout メッセージが表示される (BugID 4986413) 15
- IO ボードを取り外す際にエラーメッセージが表示される (BugId 4986477)
16
- ほかのドメインで使用中のシステムボードを新しいドメインで構成すると失
敗する (BugId 4990295) 16
- ハードウェア障害によって最終的に efhd デーモンがハングする (BugId
4991633) 17
- 予定されていなかった新規ユーザーの追加があるとアップグレードが失敗す
ることがある (BugId 4994106) 17
- システムがビジー状態のときに CHS 読み取りエラーまたは CHS 書き込みエ
ラーが発生することがある (BugId 4999940) 18

汎用 I2C のロックエラーを生成して poweron が断続的にハングする (BugId 5009599) 18

flashupdate によって CP2140 ボードの SC 番号を確認できない (BugId 5012993) 19

SMS 1.4.1 ソフトウェアに影響するバグ 19

インストール済みドメインの MAN I1 ネットワーク IP アドレスを変更すると、手動で MAN ネットワークを再構成する必要がある (BugId 4484851) 19

Sun Fire 15K/E25K プラットフォーム固有の Begin/Finish スクリプトが、HPCi+ のみのドメインでハングアップする (BugId 4797577) 20

Hpc3130 カセットの状態に対して、断続的な I²C タイムアウト (1124) が発生する (BugId 4785961) 20

キャッシュ不可の要求への対応づけを解除された応答が、AXQ ロックモジュールの状態を破壊する (BugId 4761277) 20

Sun Fire 15K/E25K サーバーで、ドメイン停止割り込みの検出に失敗することがある (BugId 4924523) 21

フェイルオーバーが失敗した場合、SunMC は起動時に不正なシステム状態を表示することがある (Bug ID 5010351) 21

SMS 1.4.1 マニュアルの誤り 22

poweron マニュアルページは更新が必要である (BugId 5007971) 22

3. 動的再構成 (DR) ご使用にあたって 23

Slot 1 DR 23

既知の制限事項 24

DR に関連するマニュアルについて 24

既知のバグ 25

DCA が障害の発生したネットワーク接続を検出しない (BugId 4628314) 25

既知のハードウェアのバグ 25

GigaSwift Ethernet MMF のリンクが、DR 接続後の CISCO 4003 スイッチで停止する (BugId 4709629) 25

はじめに

このマニュアルでは、System Management Services (SMS) 1.4.1 ソフトウェアに固有の情報を説明します。

お読みになる前に

このマニュアルは、UNIX®システム、特に Solaris™ オペレーティング環境のシステムでの作業経験を持つ Sun Fire システム管理者を対象にしています。このような知識がない場合は、まずこのシステムに付属の Solaris ユーザーおよびシステム管理者向けマニュアルを読み、UNIX システム管理のトレーニングの受講を検討してください。

次世代の Sun Fire サーバーファミリのすべてのメンバーは、ゆるやかに結合されたクラスタとして構成できます。ただしこのマニュアルでは、Sun Fire のクラスタ構成のシステム管理については解説しません。

マニュアルの構成

このマニュアルは、以下の章で構成されています。

- 第 1 章では、SMS 1.4.1 および可用性関連の制限事項を示します。
- 第 2 章では、SMS 1.4.1 のバグ、SMS 1.4.1 ソフトウェアに影響するバグ、および SMS 1.4.1 マニュアルの誤りを記載しています。
- 第 3 章では、動的再構成 (DR) に関連する情報とバグについて説明します。

UNIX コマンド

このマニュアルには、UNIX の基本的なコマンド、およびシステムの停止、システムの起動、デバイスの構成などの基本的な手順の説明は記載されていません。

これらの詳細は、以下のマニュアルを参照してください。

- 『Sun 周辺機器使用の手引き』
- Solaris ソフトウェア環境に関するオンラインマニュアル
- ご使用のシステムに付属のその他のソフトウェアマニュアル

書体と記号について

書体または記号 ¹	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。ls-a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分を実際の名前や値と置き換えてください。	rm filename と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅をこえる場合に、継続を示します。	% grep `^#define \ XV_VERSION_STRING`

1 使用しているブラウザにより、これら設定と異なって表示される場合があります。

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
C シェル	sc_name:sms-user:>または domain_id:sms-user:>
C シェルのスーパーユーザー	sc_name:# または domain_id:#
Bourne シェルと Korn シェル	>
Bourne シェルと Korn シェルのスーパーユーザー	#

関連マニュアル

用途	タイトル	Part No.
概要	Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要	817-4178-10
インストール	System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル	817-6100-10
管理者マニュアル	System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル	817-6104-10
リファレンス (マニュアルページ)	System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル	817-6105-10
オプション	System Management Services (SMS) 1.4 Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	817-4608-10
	Sun Fire ハイエンドシステム Dynamic Reconfiguration ユーザーマニュアル	817-5311-10
	Solaris のシステム管理 (IP サービス)	816-3958-11
	OpenBoot™ 4.x Command Reference Manual	816-1177-10
	Sun Fire 15K/12K システムサイト計画の手引き	817-3201-10
	Sun Fire™ Link ファブリック管理者マニュアル	817-0746-11
	Securing the Sun Fire 12K and 15K System Controllers:Updated for SMS 1.4	817-1358-10
	Securing the Sun Fire 12K and 15K Domains:Updated for SMS 1.4	817-1357-10

Sun のオンラインマニュアル

各言語対応版を含むサン各種マニュアルは、次の URL から表示または印刷、購入できます。

<http://www.sun.com/documentation>

Sun の技術サポート

このマニュアルに記載されていない技術的な問い合わせについては、次の URL にアクセスしてください。

<http://www.sun.com/service/contacting>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記よりお送りください。

<http://www.sun.com/hwdocs/feedback>

コメントにはマニュアルの Part No. (817-6112-10) とタイトルを記載してください。

System Management Services (SMS) 1.4.1 ご使用にあたって

この章では、Sun Fire ハイエンドシステム上の System Management Services (SMS) 1.4.1 に固有の情報として、以下の項目について説明します。

- SMS 1.4.1 で既知の制限事項
- 一般的な問題
- SMS マニュアルのパーツ番号

SMS 1.4.1 で既知の制限事項

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SMS 1.4.1 に関連する既知の制限事項を説明します。

- このリリースの現時点では、`setbus` を使用する必要がある場合、`setbus -c csb` が唯一の指定形式です。`-b` オプションや `location` オペランドを使用するとシステムが不安定になる可能性があるため、**使用しないでください**。
- SMS 1.4 から SMS 1.4.1 にアップグレードすると、SMS 1.4 に戻すことはできません。しかし、一方向にしか行えないこのアップグレード制限は SMS 1.3 には適用されません。つまり、SMS 1.3 から SMS 1.4.1 にアップグレードし、SMS 1.3 に戻すことができます。
- Sun Fire ハイエンドシステムで SMS 1.4.1 から SMS 1.3 に戻す場合、`smsversion` を実行しても、ドメイン構成の設定値は自動的に復元されません。手動でドメイン構成を復元する必要があります。自動診断やドメイン回復など、SMS 1.4.1 で提供されている機能は SMS 1.3 に戻すと使用できなくなりますのでご注意ください。詳細については、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』を参照してください。

- プロダクションドメインと、デバイスドライバなどの新規またはテストされていない特権モードソフトウェアが含まれているドメインでは、両方のドメインで `dstop` が発生する可能性があるため、これらドメイン間で拡張ボードを共有しないでください。BugId 4761277 を参照してください。
- デフォルトでは、分割スロット構成で MAXCPU ボードを使用できません。この構成が可能な SMS 1.3 からアップグレードしたためにこの構成が必要になる場合は、ご購入先にお問い合わせください。また、RFE 番号 #4863496 を参照してください。
- `setkeyswitch standby` または `setkeyswitch off` コマンドを複数同時に実行すると、拡張ボードを共有しているドメインに `dstops` が発生することがあります。BugId 4799169 を参照してください。
- hsPCI ボードには、66 Mhz スロットが 1 つあります。ドメインの再起動を行わない場合、このスロットに 33Mhz のカードを装着しないでください。BugId 4785070 を参照してください。
- UltraSPARC IV 機能を使用するには UltraSPARC IV ボードが必要です。
- hsPCI+ 機能を使用するには hsPCI + ボードが必要です。
- Sun Fire Link ファブリックマネージャサーバーをはじめとする Sun Fire Link クラスタリング機能を使用するには、wPCI ボードが必要です。

一般的な問題

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムの SMS に関連する一般的な問題について説明します。

自動診断および自動回復

SMS 1.4.1 では、以下の自動診断およびドメイン回復機能がデフォルトで使用可能です。

- 自動診断エンジン

SMS 1.4.1 には、特定のハードウェアエラーを分析し、システムとそのドメインの可用性に影響を与えるエラーが発生したコンポーネントを特定する、3 種類の診断エンジン (DE) が組み込まれています。

- SMS 診断エンジン

SMS DE は、ドメイン停止 (`dstop`) を伴うハードウェアエラーを診断します。

- Solaris オペレーティング環境

Solaris オペレーティング環境 (Solaris DE と呼ばれる) では、致命的でないドメインのハードウェアエラーを特定し、そのエラーをシステムコントローラに報告します。

- POST 診断エンジン

POST DE は、SMS で電源投入時自己診断が実行されているときに発生したハードウェアテスト障害を特定します。

これらの DE では、影響を受けたコンポーネントの診断情報を記録し、コンポーネントの健全性ステータス (CHS) の一部としてこの情報を保持します。

- 障害イベントとエラーの報告

診断エンジンでは、以下の方法により診断情報の報告を行います。

- ドメインとプラットフォームのログファイルにイベントメッセージを表示する。

表示されるイベントメッセージには、影響を受けたシステムのシャーシのシリアル番号と、障害やエラーイベントを特定するイベントコードが含まれています。また、これらのイベントメッセージは SMS イベントログにも記録され、このイベントログは `showlogs` コマンドを実行すると表示できます。

これらのイベントメッセージが表示されたときは、サービス代理店に連絡してください。サービス代理店では、シャーシのシリアル番号とイベントコードを使用して、適切な保守処理を開始します。

注 - 場合によっては、障害が発生したコンポーネントが多様であることから、診断エンジンで妥当なイベントコードを割り当てられないことがあります。このような場合は、SF15000-UNKNOWN といったように、イベントコードに UNKNOWN という文字が含まれます。サービス代理店に連絡して、適切な保守処理を開始するよう依頼してください。

- 電子メールで障害およびエラーイベントを通知する。

手動でプラットフォームやドメインのログを監視しなくても、重大な障害イベントの通知をただちに受信するように、電子メールイベント通知機能を構成することができます。イベントメッセージの場合と同様に、これらの電子メールを受信した場合はサービス代理店に連絡して、適切な保守処理を開始するよう依頼してください。

- Sun Management Center や SunSM Remote Services Net Connect を通して障害イベントを通知する (通知するように構成している場合)。

- 停止したドメインの自動復元

ドメイン停止 (`dstop`) に伴ってハードウェアエラーが発生した場合、POST では、影響を受けたコンポーネントの CHS 情報を調べて、障害が発生したコンポーネントをシステムから構成解除します。

これらの機能についての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』の「自動診断および自動回復」を参照してください。

SMS 1.4.1 の新規コマンド

SMS 1.4.1 で採用された自動診断および自動回復機能に関連して、次のデーモンとコマンドが新たに追加されました。これらのデーモンおよびコマンドについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の説明を参照してください。

- efhd(1M) - エラーおよび障害処理デーモン
- elad(1M) - イベントログアクセスデーモン
- erd(1M) - イベントレポートデーモン
- setcsn(1M) - Sun Fire ハイエンドシステムのシャーシのシリアル番号を設定する。
- testemail(1M) - イベントメッセージのログ機能と電子メールによるイベント通知機能を含む、イベントレポート機能のテストを行う。このコマンドへのパスは次のとおりです。

```
/opt/SUNWSMS/SMS/lib/smsadmin/testemail
```

SMS 1.4.1 で修正されたコマンド

自動診断および自動回復機能の採用による変更を反映して、SMS 1.4.1 では次のコマンドが更新されました。これらのコマンドについての詳細は、『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の説明を参照してください。

- showlogs (1M) - イベントログ情報を表示する新しいオプションを提供する。
- showplatform (1M) - Sun Fire ハイエンドシステムに割り当てられたシャーシのシリアル番号を表示する。

シャーシのシリアル番号

シャーシのシリアル番号は、Sun Fire ハイエンドシステムを特定する際に使用されません。このシリアル番号によってシステムイベントメッセージに記載されているプラットフォームが特定されるため、サービスプロバイダでは、この番号を利用して、発生したイベントと保守処理を適切なシステムに対応付けます。

シャーシのシリアル番号は、システムシャーシ正面の下部中央付近に貼付されているラベルに印刷されています。SMS 1.4 からは、シャーシのシリアル番号は、サンでの製造時に SMS 1.4 または SMS 1.4.1 をインストールして出荷するシステム上に自動的に記録されます。シャーシのシリアル番号を表示するには、showplatform -p csn コマンドを実行します。

旧バージョンの SMS から SMS 1.4.1 にアップグレードするときは、`setcsn(1M)` コマンドを使用して、Sun Fire ハイエンドシステムのシャーシのシリアル番号を記録してください。シャーシのシリアル番号の設定方法については、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』と『System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル』の `setcsn` コマンドの説明を参照してください。

Capacity on Demand (COD)

障害が発生した非 COD CPU を交換する際に、用意されているインスタントアクセス CPU (ヘッドルームとも呼ばれる) を一時的に使用可能にすることができます。この場合、インスタントアクセス CPU は、**ホットスペア**と見なされます。これは、障害が発生した非 COD CPU の交換時にただちに使用可能なスペアの CPU です。しかし、障害が発生した非 COD CPU を交換した後、『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』の「Capacity on Demand」に記載されている説明に従って、インスタントアクセス CPU を無効にする必要があります。インスタントアクセス CPU を継続使用する場合は、購入先に連絡して、使用しているインスタントアクセス CPU の COD RTU ライセンスを購入してください。

システムコントローラ (SC) 外部ネットワークの構成

各システムコントローラ (SC) は、その接続先である TCP/IP ネットワークに合わせて構成する必要があります。TCP/IP ネットワークの計画および構成の詳細については、『Solaris 9 System Administrator Collection』の『Solaris のシステム管理 (資源管理とネットワークサービス)』を参照してください。SMS では、IPv4 と IPv6 両方の構成をサポートしています。

このリリースでは、SC は各 SC の背面板にある RJ45 ジャックでのネットワーク接続をサポートしています。この接続は、各 SC の Solaris ソフトウェアの `hme0` および `eri1` と対応します。使用する TCP/IP ネットワークに適した情報を使って、各 SC の `hme0` または `eri1` を構成する必要があります。この構成により、各 SC は個別の IP ホスト名およびアドレスを持ち、外部のネットワークアプリケーションに認識されるようになります。



注意 – Sun Fire ハイエンドシステムのマニュアルに記載されている `smsconfig` の使用例の IP アドレスは、あくまで例に過ぎません。使用するネットワークで有効な IP アドレスについては、必ず『Sun Fire 15K/12K システムサイト計画の手引き』を参照してください。特定の状況のもとでは、無効なネットワーク IP アドレスを使用すると、システムが起動できなくなる場合があります。

各 SC は、相互に排他的な 2 つのモードのうちの 1 つ、すなわちメインモードまたはスペアモードで動作します。メインモードの SC が、コンピュータを制御する SC です。スペアモードの SC は、メイン SC に障害が発生した際に自動的に交代するスペアとして動作します。システムコントローラのうち、どれがメイン SC でどれがスペア SC であるかを確認しておくことは重要です。SC の役割を判別するには、SC にログインしてから以下のコマンドを使用します。

```
sc0:sms-user:> showfailover -r
MAIN
```

外部コミュニティーネットワークを構成していない場合は、Sun Management Center、telnet などのアプリケーションには、メインシステムコントローラの適切な IP hostname を指定する必要があります。SC のフェイルオーバーの場合、これらのアプリケーションの再起動では新しいメイン SC の IP アドレスを指定する必要があります。

注 — 一方の SC で smsconfig -m を使ってネットワーク構成に変更を加えた場合には、もう一方の SC にも必ず同じ変更を加えてください。ネットワーク構成が、他方の SC に自動的に反映されることはありません。

システムの BREAK 処理

フェイルオーバーを容易にするために、システムを停止する BREAK 処理が STOP-A から代替の [RETURN] [TILDE] [CONTROL B] に変更されています。

注 — それぞれのキー入力の間には 0.5 秒以上の間隔をおきます。さらに、シーケンス全体は 5 秒以内に入力し終える必要があります。

これは Solaris 8 で導入された新機能で、ハングしているシステムを強制的に停止できるように、同時にランダムなキー入力によるシステムの意図せぬ停止も効果的に避けられます。このキーシーケンスが使えるのは、コンソールとして機能しているシリアルデバイスだけです。システム本体に接続されているキーボードでは使えません。

/etc/default/kbd ファイルの以下の行は、デフォルトでコメント解除されています。

```
KEYBOARD_ABORT=alternate
```

注 – システムに対して、STOP-A は使用しないでください。システムでフェイルオーバー機能を利用できなくなります。

IPSec の構成

Sun Fire ハイエンドシステムで使用するディスクは、Sun Fire ハイエンドシステムを使用してインストールする必要があります。/etc/inet/inetd.conf に記述されているポリシーは、手動で /etc/inet/ipsecinit.conf にも追加する必要があります。

/etc/inet/inetd.conf から削除するポリシーは、
/etc/inet/ipsecinit.conf から手動で削除する必要があります。

Bug Id 4449848 を参照してください。

smsconnectsc コマンド

smsconnectsc は、遠隔 SC がハングアップして、login では正常にアクセスできない場合に使用するためのコマンドです。smsconnectsc を使用してローカル SC から遠隔コンソールセッションを作成すると、ローカル SC は監視能力と監視機能を失う場合があります。システムの回復という明確な目的でない限り、smsconnectsc を使用しないでください。

再インストールとアップグレード

以前のバージョンの SMS では、Java™ WebStart GUI と pkgadd コマンドを使用して、SMS パッケージを Sun Fire ハイエンドシステムにインストールする方法がマニュアルに記載されていました。SMS 1.3 では、smsinstall スクリプトと smsupgrade スクリプトを採用しており、WebStart と pkgadd コマンドを推奨したりマニュアルに記載したりする必要がない程度に、インストールとアップグレード処理が簡略化および合理化されています。SMS の設定は複雑であるため、『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』に記載されている方法以外では、SMS 1.4.1 のインストールやアップグレードは行わないでください。他の方法を使うと、正しく設定できなかつたり、一部の機能が失われる可能性があります。

SMS マニュアルのパーツ番号

このリリースのソフトウェアマニュアルは、以下の Web サイトで入手できます。

http://www.sun.com/products-n-solutions/hardware/docs/Servers/High-End_Servers/Sun_Fire_15K/SW_FW_Documentation/SMS/index.html

ファイル名はパーツ番号と同じです。以下にマニュアル名との対応を示します。

817-6112-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.4.1 ご使用にあたって (817-4183-10 (SMS 1.4) および 817-1348-10 と差し替え)

817-6100-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル (817-4171-10 (SMS 1.4) および 817-1343-10 と差し替え)

817-6104-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル (817-4175-10 (SMS 1.4) および 817-1340-10 と差し替え)

817-6105-10.pdf - System Management Services (SMS) 1.4.1 リファレンスマニュアル (817-4176-10 (SMS 1.4) および 817-1341-10 と差し替え)

817-4178-10.pdf - Sun Fire ハイエンドシステムソフトウェアの概要 (817-1353-10 と差し替え)

第2章

SMS 1.4.1 のバグ

この章では、SMS 1.4.1 で既知のバグについて説明します。以下の項目を説明します。

- SMS 1.4.1 ソフトウェアのバグ
 - SMS 1.4.1 ソフトウェアに影響するバグ
 - SMS 1.4.1 マニュアルの誤り
-

SMS 1.4.1 ソフトウェアのバグ

この節では、SMS 1.4.1 に影響する重大なバグや RFE について簡単に説明します。

ホットスワップ時に SEEPROM にイベントを記録しようとするとき I2C タイムアウトが報告されることがある (BugId 4785961)

Sun Fire ハイエンドシステムは、i2c バスを介して入出力カードの SEEPROM に対象となるイベントを記録します。ホットプラグ対応のカードには、そのカードを電気的に分離できるように CBT スイッチが付いています。カードの交換作業の際にはこの CBT スイッチが「open」状態ではなく、このため SEEPROM はアクセスできません。

ホットスワップ作業の直後に hpost を実行すると入出力カードがリセットされますが、カードのテストを完了するまで hpost は CBT スイッチを有効な状態に戻しません。このテストの際にシステムが SEEPROM にイベントを記録しようとするとき、接続に失敗してシステムは i2c タイムアウトエラーを報告します。システムは通常通り実行を続けますが、イベントは入出力カードの SEEPROM に記録されません。

回避策: このエラーメッセージを無視してください。

hwad の失敗でドメインがパニック状態となり停止することがある (BugID 4924523)

ごくまれに、hwad はドメインが正常に回復したことを検出できないことがあります。この場合、hwad はドメインの dstop フラグの解除に失敗します。この結果、dstop が再度実行されます。hwad は、dsmd がすでに (先の) dstop に気付いているものと誤解し、dsmd に dstop について知らせません。この結果、ドメインがハング状態のままになります。ドメインは最終的に補助的なステータステストに失敗し、強制的なパニック状態となり、この時点で dsmd は回復を試みます。

回避策：なし

ドメインの起動時間が長くなった (BugId 4957596)

Sun Fire ハイエンドシステムの電源投入後、そのドメインで Solaris プロンプトが表示されるまでの時間が約 15% 増加しました。

回避策：なし

2 プロセッサのシステムボードでドメイン再起動後に Unknown ステータスが表示される (BugId 4970240)

2 プロセッサのシステムボードの両方のプロセッサで Solaris ECC 回復可能エラーが通知され、ドメインが再起動されるときに、システムボードの「電源状態」が ON のままにならず、UNKNOWN に変わります。このため、showchs が失敗します。

この問題は、4 プロセッサのシステムボードでは発生しません。

回避策：システムボードの電源を再投入します。

電源を切断した拡張ボードにシステムボードを取り付けられない (BugId 4970670)

電源を切断した拡張ボードにシステムボードを取り付けた場合に、インストールレコードが記録されません。

回避策: システムボードを取り外し、拡張ボードの電源を投入した後、システムボードを再度取り付けます。

実行中のドメイン内の拡張ボードの電源を切断した場合に、ドメインが回復しない (BugId 4970726)

実行中のドメイン内の拡張ボードの電源を切断した場合に、dsmd によってドメインが回復しません。

回避策: 実行中のドメインによってスロット 0 または 1 のコンポーネントが使用中の場合、拡張ボードの電源を切断しないでください。

setkeyswitch 処理を平行して実行しているシステムの post で CHS エラーが断続的に報告される (BugId 4971816)

setkeyswitch 処理を平行して実行しているシステムでは、post 時に CHS エラー 4 (CHS: コンテナではない) がときどき発生することがあります。CHS エラー 4 が発生すると、照会されているリソースに問題があった場合、そのリソースが除外されずにドメインに組み込まれてしまいます。

回避策:

1. 複数のドメインを同時に post することは避けてください。
2. setkeyswitch on を実行する前に、ボードの電源を入れるかあるいはドメインに対して setkeyswitch standby を実行してください。
3. 失敗する場合は setkeyswitch on を繰り返してください。

SMS 1.4.1 とパッチを適用していない SMS 1.3 を smsversion を使用して切り替えることができない (BugId 4974601)

システムに SMS 1.4.1 をインストールした後、smsversion を使用して SMS 1.3 と SMS 1.4.1 を切り替えようとしても、以下に示すようにメニューの選択肢として SMS 1.4.1 が表示されません。

```
# /opt/SUNWSMS/bin/smsversion
smsversion: SMS version 1.3 installed
smsversion: SMS version 1.4.1 installed
Please select from one of the following installed SMS versions:
1) 1.3
3) Exit
```

1.4.1 リリースを直接指定して切り替えを試みた場合、以下のメッセージが表示されてアップグレードは失敗します。

```
/opt/SUNWSMS/bin/smsversion 1.4.1
smsversion:Active SMS version < 1.3 >
You have requested SMS Version 1.4.1

Is this correct?[y,n] y
smsversion:Upgrading SMS from <1.3> to <1.4.1>.
ERROR: smsversion:SMS1.4.1 is not a consecutive release of SMS
Log file is /var/sadm/system/logs/smsversion. Exiting.
```

回避策 : SMS 1.3 にパッチ ID 115955-03 をインストールします。

複数の分割拡張ボードに対して setkeyswitch 処理を同時に実行すると SEEPROM/CHS エラーが発生することがある (BugId 4974846)

分割拡張ボードを使用して複数のドメインが構成されている場合にそれらのドメインに対して setkeyswitch を同時に実行すると、ドメインから正常なコンポーネントが除去され、SEEPROM が使用できないというエラーが生成されることがあります。また、CHS エラー 4 が発生し、不正な CHS 結果を持つコンポーネントがドメインに組み込まれることもあります。

回避策：

1. 複数のドメインを同時に post することは避けてください。
2. setkeyswitch on を実行する前に、ボードの電源を入れるかあるいはドメインに対して setkeyswitch standby を実行してください。
3. 失敗する場合は setkeyswitch on を繰り返してください。

testemail で複数の障害報告を行うと、電子メールが送信されない場合がある (BugId 4976195)

testemail コマンドを実行するには、不正なクラスの数 (-c パラメタリスト) が障害があると思われるコンポーネント数 (-i パラメタリスト) より大きくなければなりません。メッセージによっては、障害があると思われる 1 つのコンポーネントだけが報告され、その他のコンポーネントが無視されることがユーザーに通知されないことを意味します。

回避策：なし

障害のあるハードウェアのために不要な dstop エラーメッセージが生成されることがある (BugId 4983517)

ごくまれに、障害のあるハードウェアによって dstop が発生し、dstop ダンプの後で xir ダンプが起きることがあります。ドメインはすでに dstop しているために、dsmd はアクティブなプロセッサの一覧を取得できず、エラーが報告されます。

回避策：このエラーメッセージを無視してください。

有効な DR 処理時に dsmd によって不要な xir ダンプとハードウェア構成ダンプが作成されることがある (BugID 4984234)

dsmd は、DR 処理時に不要な XIR ダンプとハードウェアダンプをときどき作成することがあります。この際 DR 処理は正常に行われますが、NOTICE メッセージが表示されます。

回避策 : NOTICE メッセージを無視してください。

分割拡張ボード構成で複数の setkeyswitch 処理を同時に実行するとシステムがハングすることがある (BugID 4984879)

分割拡張ボード構成のドメインで setkeyswitch 処理を同時に実行すると、ごくまれに post 時にシステムがハングすることがあります。setkeyswitch 処理は終了せず、Control-C で中断することもできません。この問題を防止する方法を次に示します。

1. 複数のドメインに対して setkeyswitch 処理を同時に実行することは避けてください。
2. 分割拡張ボードを使用したドメインに対して setkeyswitch 処理を同時に実行することは避けてください。
3. setkeyswitch on を実行する前に SMS poweron コマンドまたは setkeyswitch standby コマンドでドメイン内のボードに電源を入れてください。

回避策 : SMS を終了して再起動します。『System Management Services (SMS) 1.4.1 管理者マニュアル』を参照してください。

分割拡張ボードのドメイン構成で setkeyswitch 処理が無効な rstop を生成することがある (BugID 4986412)

分割拡張カードで構成されたドメインの一方で setkeyswitch off を実行すると、エラーが発生していない場合でも他方のドメインが rstop メッセージを受け取ることがあります。

回避策 : rstop メッセージを無視してください。

MCPU または IO ボードをドメインの IO スロットに装着した後、不要な I2C timeout メッセージが表示される (BugID 4986413)

Sun Fire ハイエンドシステムドメインに新しいボードを装着した場合は、その電源が安定するまでに数秒かかります。esmd デーモンは、30 秒おきにポーリングして新しいボードを検出します。ポーリングの送信中にボードの電源が安定すると、hwad はタイムアウトエラーを検出し、エラーメッセージを表示します。また、障害を示すオレンジ色のライト (レンチのライト) も最長 1 分間点灯します。

次の 30 秒間で esmd が再度ポーリングして新しいボードを検出するまでにはその新しいボードは安定し、esmd はタイムアウトエラーを検出なくなります。

回避策 : このエラーメッセージを無視してください。

IO ボードを取り外す際にエラーメッセージが表示される (BugId 4986477)

Sun Fire ハイエンドシステムドメインの IO3 スロットと IO4 スロットからボードを取り外す場合、不要なエラーメッセージがいくつか表示されることがあります。たとえば、次のメッセージが表示されます。

```
sc% showlogs -F -p m
ERR I2cComm.cc 410] I2c read time out - bus: 51, address: 21
ERR SelectPll.cc 292] Reading bus failed in address 0, ecode=1123
...
ERR DetectorS.cc 912] Failed to read state point v1r5, located on HPCI at
IO3: ecode=1123
ERR DetectorS.cc 912] Failed to read state point am80a_3v0, located on
HPCI at IO3: ecode=1123
...
ERR DetectorS.cc 912] Failed to read state point am80a_5v1, located on
HPCI at IO3: ecode=1123
ERR DetectorS.cc 912] Failed to read state point aa30c, located on HPCI at
IO3: ecode=1123
WARNING DetectorS.cc 216] A BAD clock status has been detected on input 0
on HPCI at IO3
WARNING DetectorS.cc 246] A BAD clock status has been detected on input 1
on HPCI at IO3
NOTICE Boards.cc 2262] HPCI at IO3 removed
```

表示されるべきメッセージは、「IO3 removed」と「IO4 removed」だけです。

ボードが取り外され、構成チェックがまだ完了していない段階で esmd がその電圧チェックを実行するとこの現象が発生します。

回避策: このエラーメッセージを無視してください。

ほかのドメインで使用中のシステムボードを新しいドメインで構成すると失敗する (BugId 4990295)

ほかのドメインで使用中のシステムボードを特定のドメインに組み込む場合、初めにそのボードの電源を切らないと構成は失敗します。

回避策: ボードをドメインに構成する前にボードの電源を切ってください。

ハードウェア障害によって最終的に efhd デーモンがハングする (BugId 4991633)

picld が失敗して再開されるイベントでは、失効したハンドルが原因となって efhd は障害の起きた FRU のコンポーネントステータスを設定できません。この問題は、プラットフォームのメッセージログを調べて確認できます。以下に例を示します。

```
Feb  1 00:42:00 2004 xc10p13-sc1 frad[14699]: [9912 713967991973909 ERR
SeepromInfoPro.cc 483] Bad section header on CDCDIMM at EX12/CDCDIMM0, bad
element: tag, expected value: 8, actual value: 0
```

類似したメッセージが表示される場合は、ps コマンドを使用して picld が再開されているか確認してください。

```
> ps ef | grep picld
root 8495 26846 0 11:53:36 pts/25 0:00 grep picld
root 27535  1 0 11:57:20 ?      3:06 /usr/lib/picld/picld
```

前回 efhd が開始した後で picld が再開したことをタイムスタンプが示している場合は、efhd デーモンを再起動する必要があります。

回避策 : efhd デーモンを再起動してください。

予定されていなかった新規ユーザーの追加があるとアップグレードが失敗することがある (BugId 4994106)

(jumpstart サーバーからアップグレードを実行する場合などに) SMS のアップグレード中にシステム構成を復元する前に新規ユーザーをシステムに追加しようとすると、そのユーザーに関連するパスワードの問題が原因となってインストールが失敗することがあります。

回避策 : 『SMS 1.4.1 インストールマニュアル』で説明されるまで新規ユーザーを構成しないでください。

システムがビジー状態のときに CHS 読み取りエラーまたは CHS 書き込みエラーが発生することがある (BugId 4999940)

コンポーネントの健全性ステータスの読み取りまたは書き込みの際にほかのドメイン回復のために SC がビジー状態にあると、FRU I/O エラー 2 が返されることがあります。(コンポーネントに障害があると思われるときに CHS が書き込まれない場合) この問題が原因となって、障害のあるコンポーネントがドメインに再び構成されることがあります。

回避策 : 障害の起きたコンポーネントに対して手動で `setchs` を実行してそのコンポーネントを障害状態に設定するか、あるいはそのコンポーネントを ASR ブラックリストに含めてください。

汎用 I2C のロックエラーを生成して `poweron` が断続的にハングする (BugId 5009599)

`poweron` 処理がハングし、以下のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

```
esmd[17438]: [6175 3316412316413 ERR Boards.cc 713] Error (code = 1215),
attempting to lock Global I2C on HPCI at IO2

hwad[17152]: [0 3324411478033 ERR LockManager.cc 970] WARNING!!Resource
113 is not locked, application 17169.11 in EXPLICIT lock mode.

Feb 25 23:03:35 2004 ht92bsc0 poweron[26197]: [6173 3349414612490 ERR
EXBPowerControl.cc 147] Failed(1215) to get system lock EXB at EX10

Feb 25 23:03:35 2004 ht92bsc0 poweron[26197]: [6214 3349417208771 ERR
poweronApp.cc 1342] Attempt to poweron EXB at EX10 failed
```

これらのメッセージは、`poweron` コマンドとフェイルオーバーメカニズムとの間のロックによって引き起こされます。

回避策 : `poweron` を実行する間は `failover` を無効にしてください。

flashupdate によって CP2140 ボードの SC 番号を確認できない (BugID 5012993)

flashupdate コマンドは、CP2140 ボードの SC 番号を確認できずに以下のエラーメッセージを表示することがあります。

```
flashupdate -f /opt/SUNWSMS/firmware/oSSCPOST.di SC1/FP1
Unable to determine local SC number.
Only the local System Control Fproms can be updated.
Do you wish to continue?(yes/no)? y
```

回避策：通常の更新処理を継続したい場合は「y」と答えてください。

SMS 1.4.1 ソフトウェアに影響するバグ

ここでは、SMS 1.4.1 システムに影響を与える可能性のある重大なバグについて説明します。SMS 1.4.1 システムに影響を与える可能性のあるすべてのバグを記載しているわけではありません。

インストール済みドメインの MAN I1 ネットワーク IP アドレスを変更すると、手動で MAN ネットワークを再構成する必要がある (BugId 4484851)

インストール済みのドメインがあり、`smsconfig -m` を使用してその MAN I1 ネットワーク構成を変更したときは、インストール済みドメインの MAN ネットワーク情報を手動で構成する必要があります。

回避策：『System Management Services (SMS) 1.4.1 インストールマニュアル』の未構成ドメインに関する情報を参照してください。

Sun Fire 15K/E25K プラットフォーム固有の Begin/Finish スクリプトが、HPCI+ のみのドメインでハングアップする (BugId 4797577)

Solaris 8 Update 7 オペレーティング環境は、hsPCI+ ボードをサポートしていません。hsPCI+ ボードのみで構成されているドメインでは、Begin/Finish スクリプトの開始後、インストールがハングアップします。

回避策: Ctrl-C を押して、Begin/Finish スクリプトに割り込みをかけます。これにより残りのインストールを継続させることができるため、インストールが正常に行われます。

Hpc3130 カセットの状態に対して、断続的な I²C タイムアウト (1124) が発生する (BugId 4785961)

Hpc3130 hsPCI カセットの状態を取得するときに、dxs と frad によって断続的な I²C タイムアウトが報告されます。このバグの影響は害のないもので、プラットフォーム、ドメイン、およびドメインコンソールのメッセージログにエラーメッセージを生成するだけです。

回避策: なし

キャッシュ不可の要求への対応づけを解除された応答が、AXQ ロックモジュールの状態を破壊する (BugId 4761277)

2 つのドメインで 1 つの拡張ボードを共有し、1 つのドメインのデバイスドライバ (または OS 拡張機能) が間違ったアドレスをプログラム済みの入出力空間に対して実行すると、両方のドメインで dstop が発生する可能性があります。これは、デバイスドライバなど、特権モードで実行されている欠陥のある OS 拡張機能でのみ起こります。

回避策: テストされていなかったり問題がある特権モードソフトウェア (デバイスドライバなど) がドメインに含まれている場合には、このドメインとプロダクションドメインとの間で、拡張ボードを共有しないでください。

Sun Fire 15K/E25K サーバーで、ドメイン停止割り込みの検出に失敗することがある (BugId 4924523)

ドメイン停止 (dstop) 割り込みが hwad で検出されても dsmd で検出されない場合、dsmd からはハートビート障害が報告されます。ハードウェアの構成情報のみダンプされ、CPU レジスタやドメインデータ (dsmd.dump) はいずれも保存されません。ハードウェア構成ファイルからは、dstop 状態が報告されます。

回避策 : POST レベルを上げてドメインの POST を再実行すると、ハードウェア問題の原因を明らかにすることができます。

フェイルオーバーが失敗した場合、SunMC は起動時に不正なシステム状態を表示することがある (Bug ID 5010351)

起動時に SunFire システムのフェイルオーバー処理が FAILED (失敗) 状態にある場合、SunMC GUI 内の PCR システム表示にシステムステータスが「activating」と不正に表示されることがあります。

回避策 : showfailover CLI コマンドを使用してシステムのステータスを確認してください。

SMS 1.4.1 マニュアルの誤り

この節では、SMS 1.4.1 のマニュアルページおよびマニュアルに含まれる誤りを記載しています。

poweron マニュアルページは更新が必要である (BugId 5007971)

RFE 4974025 の修正の一環として、poweron コマンドの動作が変更されました。以前は、ボードに十分な電力が確保されないと SMS が判断すると、このコマンドは単に失敗しました。現在、このコマンドは継続するかどうかを尋ねるプロンプトを表示します。

-y-q オプションを指定すると、このプロンプトに自動的に「no」と答えることになり、事実上以前の動作と同じになります。-y オプションは、この質問に自動的に答えません。

回避策：なし

動的再構成 (DR) ご使用にあたって

Sun Fire ハイエンドシステムの動的再構成 (DR) ソフトウェアの中には、ドメイン上で稼動するものと、システムコントローラ (SC) 上で SMS と同時に稼動するものがあります。この章では、SMS 1.4.1 リリースと同時に稼動する SC 側 DR について説明します。ドメイン側 DR の詳細については、該当するバージョンの『Solaris Sun ハードウェアマニュアル (補足)』を参照してください。

Slot 1 DR

Sun Fire ハイエンドシステムでは、2つのスロットを装備している拡張ボードを18個までサポートします。Slot 0 は CPU/メモリーボードを装着する上部のアセンブリで、Slot 1 は下部のアセンブリです。Slot 1 には、MaxCPU ボード、hsPCI アセンブリ、hsPCI+、または wPCI アセンブリのどれでも装着可能です。

注 – Slot 1 に MaxCPU ボードを装着する場合、その拡張スロット内のボードは複数のドメインに含めることはできません。「既知の制限事項」を参照してください。

Solaris 9 4/03 は、Slot 1 のボード上で DR 操作をサポートした最初の Solaris 9 です。Solaris 8 2/02 に特定のパッチを適用すれば、Solaris 8 でも Slot 1 のボード上で DR 操作をサポートできます。基本の Solaris 9 が動作しているドメインは、CPU/メモリーボード上での DR 操作を継続してサポートします。完全な Slot 1 DR サポートを得るためには、SC で SMS 1.3、SMS 1.4、または SMS 1.4.1 を使用する必要があります。機能の豊富さと最新のバグ修正という点では、最新バージョンの利用が望まれます。

既知の制限事項

拡張ボードの Slot 1 に MaxCPU ボードが装着されている場合、このスロット内のボードは別のドメイン構成に確実に含めることはできません。ドメインのどれかにボードの 1 つが含まれている場合、別のドメインに他方のボードを含めようとするとう失敗します。そのボードは「Failed」とマークされ、以下のようなエラーメッセージが POST ログに書き込まれます。

```
FAIL Slot SBx: MaxCPU in use in Slot IOx [...]
```

引き続きそのボードを動的に再構成しようとするとう、「insufficient-condition (不適切な状況)」エラーメッセージが表示されます。

ボードの電源を再投入してエラー状態を解除すると、実行可能な DR 操作 (分割スロット状態を引き起こさない処理) をそのボードに対して実行できるようになります。

注 – MaxCPU 分割スロット構成をサポートした SMS 1.3 からアップグレードするためにこの構成が必要になる場合は、ご購入先にお問い合わせください。また、RFE 番号 #4863496 を参照してください。

DR に関連するマニュアルについて

ドメイン側の DR に関する補足情報については、ドメインで動作している Solaris のバージョンに対応した『Solaris Sun ハードウェアマニュアル (補足)』を参照してください。このマニュアルは、Solaris の各バージョンに付属しています。

既知のバグ

この節では、Sun Fire ハイエンドシステムでの DR に関連する重要な SMS 側でのバグを説明します。

DCA が障害の発生したネットワーク接続を検出しない (BugId 4628314)

DCA が障害の発生したネットワーク接続を検出せず、このために DR コマンドがハングアップすることがあります。

回避策：ハングアップしたように思われる遠隔 DR コマンドをすべて終了します。

既知のハードウェアのバグ

GigaSwift Ethernet MMF のリンクが、DR 接続後の CISCO 4003 スイッチで停止する (BugId 4709629)

Sun GigaSwift Ethernet MMF Option X1151A (Part No. 595-5773) が特定の CISCO スイッチに接続されているシステムで DR 操作を実行しようとする、リンクに失敗します。この問題は、以下の CISCO ハードウェア/ファームウェアで確認されているバグが原因で発生します。

- CISCO WS-c4003 スイッチ (f/w:WS-C4003 Software, Version NmpSW: 4.4(1))
- CISCO WS-c4003 スイッチ (f/w:WS-C4003 Software, Version NmpSW: 7.1(2))
- CISCO WS-c5500 スイッチ (f/w:WS-C5500 Software, Version McpSW:4.2(1) および NmpSW: 4.2(1))

この問題は CISCO 6509 スイッチでは見られません。

回避策：別のスイッチを使用するか、パッチについて Cisco にお問い合わせください。

